

洞爺湖温泉開湯100年

7月に感謝祭開催!



洞爺湖温泉開湯100年ポスター

明治43年（1910年）の四十三山（よそみやま）の噴火後、湖畔で温泉湧出が確認され、大正6年（1917年）に竜湖館が温泉宿として始めて湖畔で営業してから今年100年目を迎えます。

洞爺湖温泉開湯100年記念事業実行委員会（実行委員長・大西英生洞爺湖温泉観光協会長）では、節目を祝う様々な記念イベントを行い、更なる洞爺湖温泉への集客をアピールしていきます。

洞爺湖温泉は明治43年、有珠山の寄生火山である四十三山の噴火活動により誕生した温泉とされています。火山国・温泉国といわれる日本でもその誕生の時期や生成の原因と過程が明らかな温泉は極めて稀です。

温泉宿第1号となる竜湖館は、虻田町史によれば、壮瞥郵便局長三松正夫、役場吏員杉山春己および安西岩吉の3人が、大正6年6月に虻田鉱山の採掘状況を見学に行った

帰途に温泉を発見し、すぐに道庁に温泉利用の出願と堤防の借用を出願して1カ月後許可を得て、営業を開始したと記録されています。

平成22年（2010年）には、「洞爺湖温泉誕生100年」として、温泉湧出が確認されてから100周年の記念事業を実施。今年、洞爺湖温泉の発祥である初の温泉宿営業開始から100年目を祝って、セレモニーなど各種事業を行います。

企画している主な事業は、記念の感謝祭が、毎年開催しているサマーフェスタに替えて7月23日、24日に開催し、記念式典のほか地域への感謝を込めて郷土芸能なども予定しています。開湯100年記念として制作した洞爺湖温泉シンボルモニュメントも感謝祭の中で除幕、披露。恒例のロングラン花火についても、特別プログラムとして「水中花火100連発」を打ち上げます。

その他、町内で6月から来年2月にかけて行われるTOYAKOマンガ・アニメフェスタ、洞爺産業まつり、洞爺湖温泉夏祭り、大収穫祭など九つのイベントと連動した「洞龍（とうろん）スタンプラリー」を実施し、9イベント全てを制覇した人には、抽選で洞爺湖温泉のペア宿泊券などを贈ります。

また、スマートフォン向け無料通信アプリ「LINE（ライン）」で使用するオリジナルスタンプも製作。年間を通して開湯100年の冠をつけてイベントを行い、更なる洞爺湖温泉の知名度アップにつなげていきます。



当時の洞爺湖温泉旅館